

重点分野2 (中目標)	行財政改革のためのガバナンス強化協力											
開発課題2 (小目標) ガバナンス強化	【現状と課題】 レバノン複合的危機の影響から各省庁及び他の公的機関は、深刻な財政難に陥っており、公務員への給与が大幅に目減りする中、ストライキが頻発している。元来レバノンは中東地域有数の「人的資源国」であるが、こうした経済危機を受け、優秀な人材の頭脳流出も歯止めがかからない。財政基盤改善のための改革も進んでいないため、レバノンの自立的かつ持続可能な成長を促進するためには、行財政改革を後押しする支援が必要である。					【開発課題への対応方針】 ① ガバナンス強化のために、行財政改革支援や公的サービス・インフラの管理能力強化を目的とした人材育成を推進。 ② 民間や国際社会と連携し、研修や技術協力を通して我が国の知見や技術を活かしながら、公共セクターに対する支援を行う。						
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
		ガバナンス、社会保障、水・エネルギー、教育、治安、金融行政等の課題別研修	課題別研修	2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度		4,6,7,10,16	
		レバノン「適正な医薬品の供給・品質管理・使用に向けた薬事行政」フォローアップ協力	フォローアップ協力								3	
	行政能力向上プログラム	系統安定化に係る分析能力強化プロジェクト	技プロ								7,13	
学校運営強化プロジェクト		技プロ								4,8		
保健分野の国別研修		国別研修								2,3,5,10		

その他															
その他 個別の案件	案件名					スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
				2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度						
	バトルーン遺跡遺構展示施設整備計画	草の根文化								0.09	10				

【凡例】 「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「基礎情報調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「国別研修」、「課題別研修他」(＝課題別研修及び青年研修、長期研修)、「JOCV」(＝JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型、SATREPS))「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「SDGs調査」(＝途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「基礎調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「ニーズ確認調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」)、「ビジネス化実証事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」)、「フォローアップ協力」(＝帰国研修員フォローアップ事業)、「実線「――」」(＝実施期間)、「破線「- - -」」(＝実施予定期間)

【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf